

# 靖国参拝の何が問題か

平凡社新書 定価740円(税別) 8月15日刊行

内田雅敏 著

## ◆問題は靖国神社の聖戦史観！◆

昨年12月の安倍首相の靖国参拝以降、中国、韓国はこれを強く非難し、関係はさらに悪化、また米国の「失望」表明をはじめ、諸外国も批判の足並みをそろえた。一方、国内では、靖国参拝は国家のための死者を国家の代表者が追悼する行為であり、どの国でも行われていることであって、外国から批判されるいわれはない、という議論もある。だとすれば、諸外国の批判など放っておけばよいのだろうか。——本書は、靖国参拝問題の本質が、この神社が遊就館の展示などで表明する歴史認識、先の戦争は日本が自国防衛のためのやむを得ざる戦争であり、アジアの植民地解放のために資するところのあった「聖なる戦争」なのだ、という歴史観にあることを、端的に指摘する。靖国の聖戦史観は、この神社の出自と延命のカラクリと、またこの神社が死者の慰霊・追悼であるより天皇のために死んだ兵士の顕彰の施設であることと、深く包み合っている。だから靖国は、聖戦史観を払い捨てることはできず、A級戦犯の分祀に応ずることもできない。そしてこの神社への首相の参拝は、敗戦以降これまで日本が先の戦争の非を認めて諸外国と結んで築いてきた平和のための秩序を、ご破算にすると宣言することになりかねない。靖国参拝の問題の本質を、明確に解き明かす1冊！

『靖国』は「信教の自由」の問題ではない!?

『靖国』は憲法前文・9条・13条の問題!!

## 靖国参拝の何が問題か

問題は  
歴史認識!

中国・韓国の批判は、  
たまたまの言いかかりなのか?  
批判されているのは追悼行為ではない。  
先の戦争は正しかったという  
靖国の歴史観は、  
戦後の平和秩序をご破算にする!

100th ANNIVERSARY

平凡社新書

定価・本体740円(税別)

### 目次

はじめに——世界が懸念した安倍首相の靖国神社参拝

第一章 靖国神社参拝の思想

一、安倍首相の靖国神社参拝への途

二、何が問題なのか

三、歴代日本政府の歴史認識と靖国の歴史認識

四、マスメディアの覚醒

五、自民党改憲草案と靖国神社参拝の思想的水脈

第二章 靖国神社の「聖戦」史観

一、無断合祀による戦死者の魂独占の虚構

二、靖国神社の「神々」の実態

三、遊就館展示の兵器が物語るもの

四、「特攻平和会館」で涙を流すだけでよいのだろうか

第三章 靖国神社が生きた延びたカラクリ

一、死者への想いに依拠して生きた延びた靖国神社

二、昭和天皇と靖国神社参拝

第四章 靖国神社と援護行政

一、東京裁判は、勝者の威きか

二、八月一五日の連続性と断絶性——ドイツ五・八との比較

三、東京裁判は勝者による断罪か?

第五章 国立追悼施設を創る——

一、非業、無念の死を強いられた死者たちの声に耳を傾けよ

二、死者たちを追悼する

三、国立追悼施設

付論1 靖国神社「放火」犯の引き渡しを拒んだ韓国高等法院判決に

見る靖国神社観

付論2 日中共同声明と靖国神社参拝

見ると靖国神社観

付論2 日中共同声明と靖国神社参拝

内田雅敏 うちだまさとし

1945年生まれ。早稲田大学法学部卒業。弁護士。関東弁護士連合会憲法問題協議会委員長を経て、現在、日本弁護士連合会憲法問題対策本部幹事、西松安野友好基金運営委員長。著書に、『「戦後補償」を考える』(講談社現代新書)、『想像力と複眼的思考——沖縄・戦後補償・植民地未清算・靖国』(スペース伽耶)などがある。